

令和2年6月29日

各位

青山学院大学  
体育会ラクロス部男子  
監督 関口 智久

### 新型コロナウイルス感染症予防対策について

\*赤字下線部分が、3月16日付けの対策書からの変更部分です。  
また、社会や大学の状況を鑑み、1週間ごとに見直しを図ります。\*

#### 1. 基本方針

部員とその家族、関係者の安全を第一に考え、感染症拡大防止対策を徹底し、状況に対応しながら活動する。

#### 2. 練習の実施と参加の基準・健康観察

練習実施と参加の基準として以下のように定める。

- ① 一つのグラウンドでの練習参加人数の上限を選手・コーチ・スタッフを含め30人とする。
- ② 練習の参加は部員とその家族に判断を委ねる。  
練習の参加可否は保護者の方からの参加承諾書をもって判断する。
- ③ 練習前の検温を義務付ける。※1
  - ・練習実施日の毎朝、自宅出発前に体温測定を実施し、担当スタッフへの報告を行う。
  - ・練習開始前、体温測定を実施し、スタッフへの報告を行う。
- ④ ③の報告をしない者は練習に参加することを認めない。
- ⑤ 次の場合は、練習の参加を見合わせ、病院を受診することとする。

A: 37.5℃以上の場合

B: 咳・鼻水・のど・関節の痛み・悪寒・倦怠感、このうち二つ以上の症状がある場合

練習中、練習後に上記の状況が生じた場合には、速やかに練習の参加を止め、極力他の部員との接触を避け、病院を受診すること。

### 3. 感染リスクの高い活動内容と対応について

・練習頻度は安全面を配慮し当面の間、通常の週5の練習はせず、段階を踏んで通常に戻していく。(電車の移動、なるべく密を防ぐ為)

#### 【6月中】

頻度…週一回のグループ練習 (・週一回の自主練習)

場所…青山学院大学緑が丘グラウンド アメリカンフットボール場

メニュー内容…パスメニュー・シュート練習等の対人度合いが低いもの

人数制限(グラウンド定員) … 上限30名

#### 【7月中】

頻度…週2～4回(段階的に引き上げ)

#### 目安

第1週：週2回

第2週：週2回もしくは3回

第3週：週2回もしくは3回

第4週：週3回もしくは4回

第5週：週3回もしくは4回

※学外屋外施設の使用可能状況、他部活との交渉により変動する可能性有

#### 判断フロー

毎週水曜日に翌週の練習回数を感染者数や社会状況を鑑みて判断する

場所…青山学院大学緑が丘グラウンド アメリカンフットボール場(予定)・学外屋外施設

メニュー内容…パスメニュー・シュート練習等の対人度合いが低いものにプラスし、7月半

ばを目安に対人系を付け加える

人数制限(グラウンド定員) … 上限30名

- ・身体的な接触を伴うトレーニング(接触により飛沫が移る可能性があるため)
  - アップ・ダウンなど内容を変更できるものは、極力接触を避け選手同士の距離を保ったメニューに変更する。また練習中のメニューについては接触の激しいものは極力避ける。
- ・練習前後の集合
  - 密閉空間、密集した状態での集合を極力避ける。集合する場合は解放された空間で部員同士の距離を保った状態で行う。

### ・グラウンド入場時

2 チームが同時期に居合わせ密にならぬよう、後者の待機場所をずらす等の工夫をする。

- ・ミーティング(飛沫が飛ぶ2~5mの距離で実施されるため)
  - チーム全体として集合してのミーティングは当面の間実施しない。オンラインミーティングを代用する。10人程度以下の場合は注意した上で実施しても良いものとするが、不要不急の場合は可能な限り延期する。
- ・更衣室での更衣(全員が同じ時間に更衣をすることによるリスク)
  - 使用前後は室内の換気を行い、練習後は交代で使用する。
- ・学内トレーニング施設でのウェイトトレーニング
  - フィットネスセンターや青山学院大学緑が丘グラウンド管理者の方針に従い、少人数でトレーニングを実施し、器具の使用前後に手洗い・消毒を行う。
  - ※現時点では使用禁止のため、使用可能となったら上記を徹底。
- ・スクイズボトルの回し飲み
  - 共同のスクイズボトルの使用を禁止する。個人が持参したボトルを使用すること。

## 4. 部内での感染予防対策について

感染拡大防止においては、飛沫及び接触による人から人への感染を防ぐ予防が最重要となる。部活動は集団感染のリスクが高いことを十分に認識し、部としても個人としても以下の予防策を規律として徹底する必要がある。

### <練習前>

- ・大学施設に入構する際は、大学指定のグーグルフォームに必要事項を入力する。
- ・練習場所に到着したら手洗い・うがいをしたのち、グラウンド内に入ることを徹底する。
- ・体温を測定し、スタッフに報告することを義務付ける。
- ・更衣は密閉された空間を避け行き、更衣室を使用する際は使用前後の換気を徹底する。

### <練習中>

- ・メニュー開始前にチームとして手洗いうがいを実施する。
- ・練習中も手洗いうがいを定期的に行うことを推奨する。
- ・飛沫感染を防ぐため接触の激しいメニューは極力避ける。

- ・共同のスクイズボトルの使用を禁止する。

#### <練習後>

- ・メニュー終了時にチームとして手洗いうがいを実施する。
- ・更衣室の使用が許可されている際の利用は交代制とし、使用前後の換気を徹底する。
- ・自家用車での移動時、部員を同乗させるときは換気を心がける。

#### <練習外>

- ・公共交通機関を利用して移動する際はマスクを着用し、アルコール手指消毒を随時行う。
- ・閉鎖された環境で不特定多数との接する状況は極力避ける。
- ・外出時、口と目を不用意に触らない。
- ・手洗いうがい、アルコール手指消毒を随時行う。

#### <青山学院大学緑が丘グラウンド クラブハウス使用時>

- ・クラブハウスに入館する際は手洗い・うがいを実施する。
- ・クラブハウス内で飲食する際、飛沫が付着しやすい床に座って食事を摂ることは厳禁とする。
- ・クラブハウス内での集合及びミーティングは極力避ける。行う場合は密閉された空間を避け、屋外もしくは十分に換気を行った部屋で行う。またその際、床に座ったり寝そべったりした状態で実施するミーティングは厳禁とする。

※現時点では使用禁止のため、使用可能となったら上記を徹底。

## 5. 対外試合・合同練習の実施について

JLA ラクロス協会の発表する「新型コロナウイルス感染症に関する主催行事・活動等での対策及び実施等の方針について第7版」(下記 URL) に基づいて大学当局と協議の上決定するものとする。

▼新型コロナウイルス感染症に関する主催行事・活動等での対策及び実施等の方針について第7版

<https://www.lacrosse.gr.jp/news/14057/>

▼2020年基本方針、及び、活動再開ガイドライン(6月30日現在)

<https://www.lacrosse.gr.jp/news/14082/>

## 6. 部内における患者・疑似症患者・濃厚接触者への対応について

はじめに

- 「患者(確定例)」とは、「臨床的特徴等から新型コロナウイルス感染症が疑われ、かつ、検査により新型コロナウイルス感染症と診断された者」を指す。
- 「疑似症患者」とは、「臨床的特徴等から新型コロナウイルス感染症が疑われ、新型コロナウイルス感染症の疑似症と診断された者」を指す。
- 「濃厚接触者」とは、「患者(確定例)」が発病した日以降に接触した者のうち、次の範囲に該当する者である。
  - ・ 患者(確定例)と同居あるいは長時間の接触(車内、航空機内等を 含む)があった者
  - ・ 適切な感染防護無しに患者(確定例)を診察、看護若しくは介護していた者
  - ・ 患者(確定例)の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
  - ・ その他: 手で触れること又は対面で会話することが可能な距離(目安として 2 メートル)で、必要な感染予防策なしで、「患者(確定例)」と接触があった者(患者の症状などから患者の感染性を総合的に判断する)。
- 個々人が上記 3 項目に該当せずとも、また、部内に該当者が生ぜずとも、予防としてスタッフを含む全部員のマスクの着用を義務付ける。

### (1)部内における患者への対応について

#### 1 大学への通報

罹患した学生本人または保護者は、学生本人が所属するキャンパスの保健管理センターへ連絡の上、罹患したことを報告する。

青山キャンパス 保健管理センター: 電話 03-3409-7896

相模原キャンパス 保健管理センター: 電話 042-759-6011

上記指定機関より指示がある場合は、罹患した学生本人または保護者より連絡する。

青山キャンパス 学生生活部スポーツ支援課 :03-3409-9393

相模原キャンパス 学生生活部 学生支援課 :042-759-6004

#### 2 ラクロス部への連絡

罹患した学生本人または保護者は、ラクロス部監督(関口 智久)ならびにトレーナーリーダー(4年 縄田 有里)宛に、罹患したことを報告・連絡を義務付ける。その時は、電話・メール・LINE など形式は問わない。

#### 3 被報告者 (ラクロス部監督の動き)

連絡を受けたラクロス部監督はラクロス部長(法学部准教授 原嶋 有史)との協議の上、練習中止期間を、大学当局、安全対策、校医、厚生労働省や文部科学省などの所管行政機関

のガイドラインに従い復帰までの流れを決定する。

- ・ 決定した内容については、部員、保証人並びに大学当局へ速やかに報告・連絡をし、感染拡大の予防に努める。
- ・ 所管するラクロス協会へ連絡の上、公式戦、練習試合の実施について、延期を前提として協議を行う。日程上、開催延期が難しいと判断される場合に限り、中止による戦敗の判断を行う。

(2)部内における疑似症患者への対応について

※(1)1-3 の報告フローは同様

- 1 検査の後、検査結果が出るまでの期間は練習を欠席することを義務付ける。
- 2 その間は活動停止扱いとし、ラクロス部監督への状況報告を義務付ける。
- 3 検査後、疑似症患者と診断された場合、主治医に従い、以下の 3-2 に沿って復帰する。

(3)部内における濃厚接触者への対応について

※(1)1-3 の報告フローは同様

- 1 軸として医療機関および保健所の指示に従う
- 2 濃厚接触者は、患者と接触した日から起算して 2 週間の活動停止を義務付ける。

3-2. 復帰について

- 1 活動復帰に際して、大学が感染症における規定に沿って対応する。
- 2 感染症登校許可証明書を加療中の医療機関にプリントアウトをしたのち持参し、記入を受け、大学へ提出をすること。
- 3 感染症登校許可証明書を大学へ提出する際、証明書 1 部をコピーし、ラクロス部監督宛に提出をすること。
- 4 感染症登校許可証明書を未提出の者は、グラウンドへの復帰を認めない。

## 7. 感染者発生時の活動休止基準について

部内に感染者が発生した場合、発症前の 24 時間以内に他の部員との接触が認められた際、最低で 5 日間の活動停止とする。その後の活動再開についてはラクロス協会、大学当局との協議の上決定する。

## 8. 海外渡航者と同居している部員の練習参加基準について

上記の旨を監督・主将・主務いずれかに報告し、当該渡航者の検査結果が出るまで自宅待機。

検査結果が陰性と分かり次第監督・主将・主務いずれかに報告し、把握でき次第練習参加。

以上

【連絡先】

青山学院大学体育会ラクロス部男子

監督 関口 智久

メールアドレス：[tomohisa.sekiguchi.6712@gmail.com](mailto:tomohisa.sekiguchi.6712@gmail.com)

青山学院大学体育会ラクロス部男子

主将 中山 恵介

メールアドレス：[keisuke615615@au.com](mailto:keisuke615615@au.com)

青山学院大学体育会ラクロス部男子

主務 笠井 ことね

メールアドレス：[cootoon22@gmail.com](mailto:cootoon22@gmail.com)